

有田焼マグカップ/タンブラー

～有田焼とディズニーのコラボレーションを実現～

有田焼 *Aritayaki*

有田焼は、「伊万里(いまり)」とも呼ばれる佐賀県有田町を中心に焼かれる磁器です。日本磁器発祥の地である有田では、伝統的な手法で無数の名品をつくって来ました。磁器は白磁陶石と呼ばれるものを1300度以上の高温で焼きしめ、その作品は白く、硬く、透明で、指ではじくと澄み切った美しい音を立てます。17世紀から欧米でも絶大の人気を誇る磁器のトップブランド…それが有田の磁器です。

真右エ門窯のご紹介 *Sinemongama*

陶磁器には表面をおおっているガラス質の部分があり、それを釉薬と言います。陶磁器を製作する際、粘土等を成形した器の表面にかける薬品になります。真右エ門窯の有田焼は、その釉薬を巧みに操る釉彩の技法を得意とする窯元です。「造りの冴え、釉の妙」をキャチフレーズに、ルビー色のような「辰砂」や「結晶釉」と名づけられる赤色を生み出します。これを「窯変物」と呼び、窯の中で思わぬ変化をすることで造りだされる作品です。真右エ門窯は、これを操ることは不可能に近いと言われる「窯変」への挑戦によって、有田焼本来の白く透明な磁器に独特の世界を生み出しています。



マグカップ
8,000円

タンブラー
10,000円



真右エ門窯
二代 馬場 九洲夫氏

略歴

- 昭和51年(1976) 佐賀県窯業試験場入職 陶技の基礎を学ぶかたわら釉薬の研究をはじめ
- 昭和56年(1981) 現代工芸九州会発足と同時に入会
文化勲章受賞者・青木龍山氏に強い影響を受ける
- 平成9年(1997) 日展「旭映」入選 以後11回入選
- 平成16年(2004) ドイツ有田陶芸展へ「遙かを望む」「海辺の詩」を出品

主な受賞歴

- 平成5年(1993) 九州・山口陶磁展「藍染水滴大鉢」二席を受賞
- 平成12年(2000) 佐賀県展「遙かな漣」大賞50周年特別賞受賞
- 平成15年(2003) 九州・山口陶磁展「海辺の詩」記念特別賞 第百回記念 青木龍山賞受賞
- 平成17年(2005) 現代工芸美術展「黎明・05」現代工芸賞受賞
- 平成20年(2008) 現代工芸美術展「旭・08 (I)」現代工芸本会員賞受賞